

宮川流域下水道（宮川処理区）

宮川浄化センターの維持管理

- (1) 施 設 配 置 図
- (2) 幹 線 管 渠 状 況 図
- (3) 施 設 計 画 と 現 況
- (4) 設 備 概 要
- (5) 処 理 フ ロ ー
- (6) 水 質 管 理 状 況
- (7) 処 理 水 量
- (8) 電 力 ・ 水 道 ・ 薬 品 ・ 燃 料
- (9) 汚 泥 脱 水 処 理
- (10) 施 設 点 検 業 務 の 概 要
- (11) 水 質 試 験 業 務
- (12) 周 辺 環 境 調 査

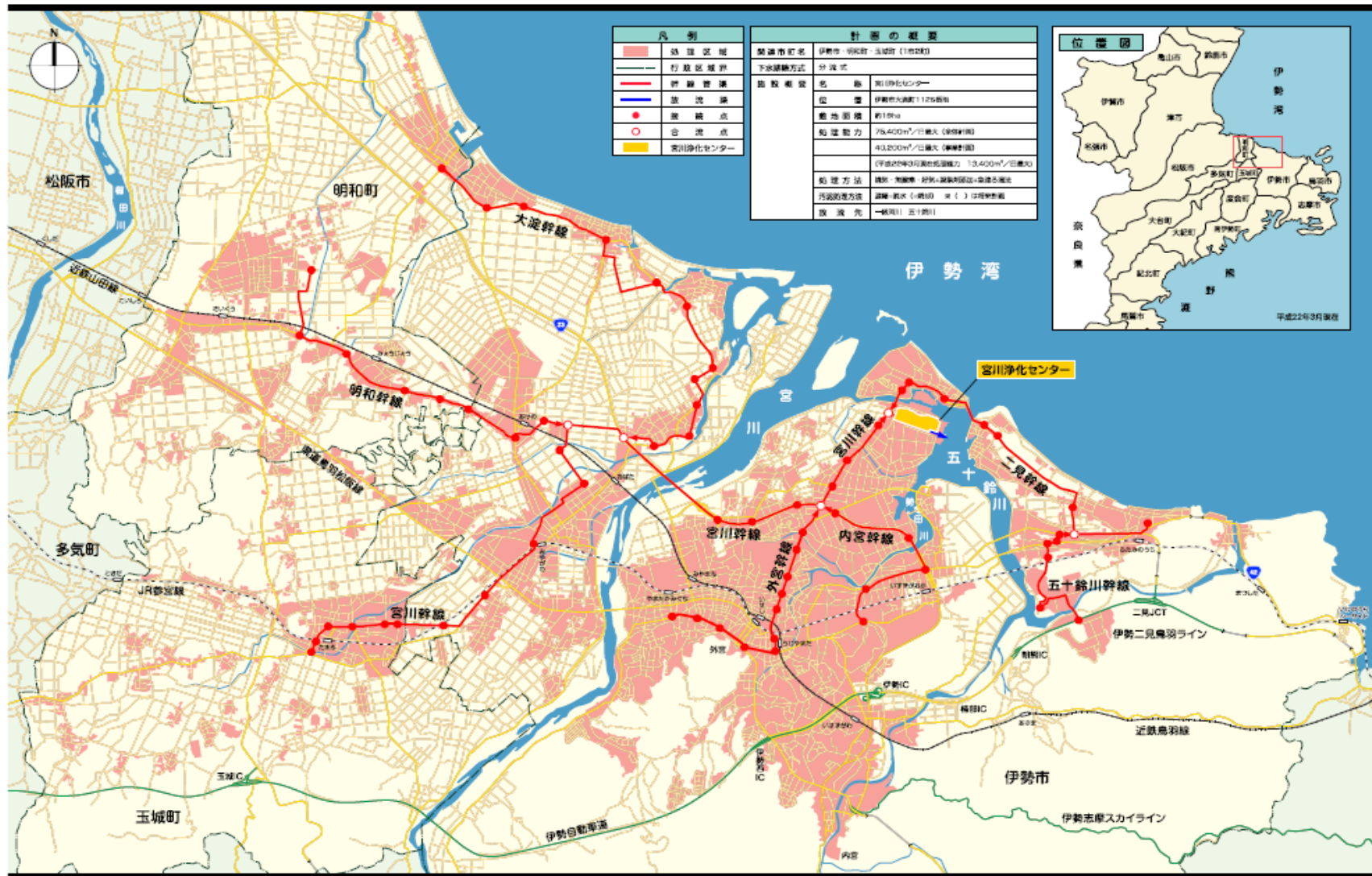
(2)宮川処理区幹線管渠状況図

8幹線	管径150~1,650mm	総延長	46.8km
-----	---------------	-----	--------

(平成22年度 供用開始率 46.58%)

(供用開始延長:累計延長)

幹線名	宮川	内宮	外宮	二見	明和	大淀	五十鈴川	放流渠	計
管径(mm)	1,650 ~800	1,000 ~600	1,000 ~900	800 ~300	800 ~300	600 ~150	440 ~150	1,500 ~1,350	
延長(km)	14.0	3.8	4.5	6.3	6.3	9.3	2.5	0.1	46.8
H22年度	(78.57%) 11.0	(5.26%) 0.2	(100.00%) 4.5	(76.19%) 4.8	(6.35%) 0.4		(32.00%) 0.8	(100.00%) 0.1	(46.58%) 21.8



(3) 施設計画と現況

形状区分 名称	形状寸法	全体計画	平成22年度現在		
			土木建築	機械電気	摘要
スクリーン	水路幅1.5m	2水路	2水路	1水路	
初期用ポンプ	3.0m ³ /min	1台	—	1台	
主ポンプ	12.0m ³ /min	2台	—	2台	
	14.0m ³ /min	2台	—	1台	
	48.0m ³ /min	2台	—	—	
最初沈殿池	L= 19.0m W=3.9m 有効水深 3.0m	24池	8池	4池	
反応槽 (嫌気槽)	L= 9.0m W=8.0m 有効水深 5.5m	12池	4池	2池	
反応槽 (無酸素槽)	L= 9.0m W=8.0m 有効水深 5.5m	60池	20池	10池	
反応槽 (好気槽)	L= 9.0m W=8.0m 有効水深 5.5m	60池	20池	10池	
最終沈殿池	L= 47.0m W=3.9m 有効水深 3.5m	24池	8池	4池	
急速ろ過池 (砂ろ過池)	10m ³	1池	1池	1池	
	15m ³	1池	1池	1池	
	25m ³	10池	1池	1池	
塩素混和池	L= 81.3m W=3.0m 有効水深2.5m	2池	1池	1池	
次亜塩素酸ソーダ 貯留槽	4m ³	4槽	—	1槽	
送風機	29m ³ /min	2台	—	2台	
	51m ³ /min	1台	—	1台	
	60m ³ /min	2台	—	—	
汚泥重力濃縮タンク	φ 7.5m H 4.0m	4槽	1槽	1槽	
脱水機	造粒調質式ベルトプレス ろ布幅 1.5m ろ過速度 180kgDS/m/h	4台	—	2台	
自家発電機	2,000kVA	2台	—	1台	
幹線管渠	φ 200mm～φ 1,650mm	46.8km	19.8km	—	
放流渠	φ 1,350mm～φ 1,500mm	0.1km	0.1km	—	

(4) 設備概要

施設	設備	機器名	規格又は仕様	電気容量 (kw)	台数	
ス ク リ ン 設 備	ス ク リ ン 設 備	SP棟流入ゲート	外ネジ式鋳鉄製電動ゲート、800W×1500H	5.50	2	
		粗目スクリーン	鋼製バースクリーン目幅100mm×取付角度90°	—	2	
		粗目スクリーン吊上装置	電動式チェンブロック、2ton×9m	1.70	1	
		細目スクリーン除塵機	連続式自動除塵機 目幅20mm×取付角度70°	2.20	1	
		ポンプ井流入ゲート	外ネジ式鋳鉄製手動ゲート、800W×1500H	—	2	
		ポンプ井連通ゲート	外ネジ式鋳鉄製手動ゲート、1200W×1200H	—	1	
		No.1スクリーンかす搬出機	トラフ形ベルトコンベヤ 600W×10500L	1.50	1	
		スクリーンかす洗浄機	機械攪拌式、1m3/時	3.7+0.75	1	
		スクリーンかす脱水機	スクリュー式、1ton/時	5.90	1	
		No.2スクリーンかす搬出機	耳棧横棧付垂直ベルトコンベヤ 幅610×水平6.6m垂直28.35m	7.50	1	
		スクリーンかす用ホッパ	電動カットゲート式ホッパ、5m3	0.75×2	1	
		ポンプ井攪拌機	水中プロペラ式、500Φ	7.40	1	
	ス ク リ ン 設 備	ポンプ井攪拌機吊上装置	手動式ギヤードトロリ式チェンブロック、0.5ton×9m	—	1	
		No.1搬入用ホイスト	電動トロリ付ホイスト、2.9ton×19m	4.0+0.75	1	
		No.2搬入用チェンブロック	電動式チェンブロック、2.9ton×12m	3.0+0.75	1	
		砂ろ過水切替弁(スクリーン)	電動ボール弁、125Φ	25W	1	
		SP棟給水ユニット	圧力式自動給水ユニット 65Φ×410L/分×44m	7.50	1	
		雨水排水槽	鋼板製角形槽、1m3	—	1	
		雨水排水ポンプ	無閉塞形汚泥ポンプ 80Φ×0.15m3/分×14m	2.20	1	
		維持管理用ホイスト	電動トロリ付ホイスト、1ton×26m	3.5×0.75	1	
		脱 臭 設 備	スクリーン室脱臭ファン	片吸込ターボファン 56m3/分×1.96kPa	3.70	1
			スクリーン室脱臭装置	添着活性炭吸着塔、40m3/分	—	1
			SP棟搬出室脱臭ファン	片吸込ターボファン 44m3/分×1.96kPa	3.70	1
			SP棟搬出室脱臭装置	添着活性炭吸着塔、44m3/分	—	1
	SP棟搬出室脱臭切替ダンパ		電動ダンパ、350×350	0.04	1	
	活性炭搬出入クレーン(スクリーン)		手動式ギヤードトロリ付、1ton×5.5m	—	1	
	プ 主 ポ ン プ 設 備	No.1～2主ポンプ	立軸渦巻斜流ポンプ 350Φ×12m3/分×27m	—	2	
		No.1～2主ポンプ用電動機	かご形三相誘導、6P、90kW	90.00	2	
		No.1～2主ポンプ吐出弁	外ネジ式電動仕切弁、350Φ	0.75	2	
		No.3主ポンプ	立軸渦巻斜流ポンプ 350Φ×14m3/分×27m	—	2	
		No.3主ポンプ用電動機	かご形三相誘導、6P、110kW	110.00	2	
		No.3主ポンプ吸込弁	外ネジ式手動仕切弁、450Φ	—	1	
		No.3主ポンプ吐出弁	外ネジ式電動仕切弁、450Φ	1.50	1	
ポンプ井排水ポンプ		吸込スクリュー付汚水ポンプ 200Φ×3m3/分×26m	37.00	1		
床排水ポンプ(ポンプ室)		脱着式水中汚水ポンプ 65Φ×0.3m3/分×13m	1.50	2		
床排水ポンプ吊上装置(ポンプ室)		手動式チェンブロック、0.5ton×2.5m	—	1		
天井クレーン		手動走行式クレーン(チェンブロック式)、5ton×22m	—	1		
維持管理用チェンブロック		電動式チェンブロック、2.9ton×21m	3.00	1		
砂ろ過水切替弁(ポンプ)		電動式ボール弁、125Φ	85W	1		
ポンプ室軸封水用処理水槽		FRP製、5m3	—	1		
ポンプ室軸封水用給水ユニット		圧力式自動給水ユニット40Φ×80L/分×55m	3.70	1		
汚 水 管 連 通 弁	汚水管仕切弁	手動バタ弁、600Φ	—	2		
	汚水管連通弁	手動バタ弁、900Φ	—	1		

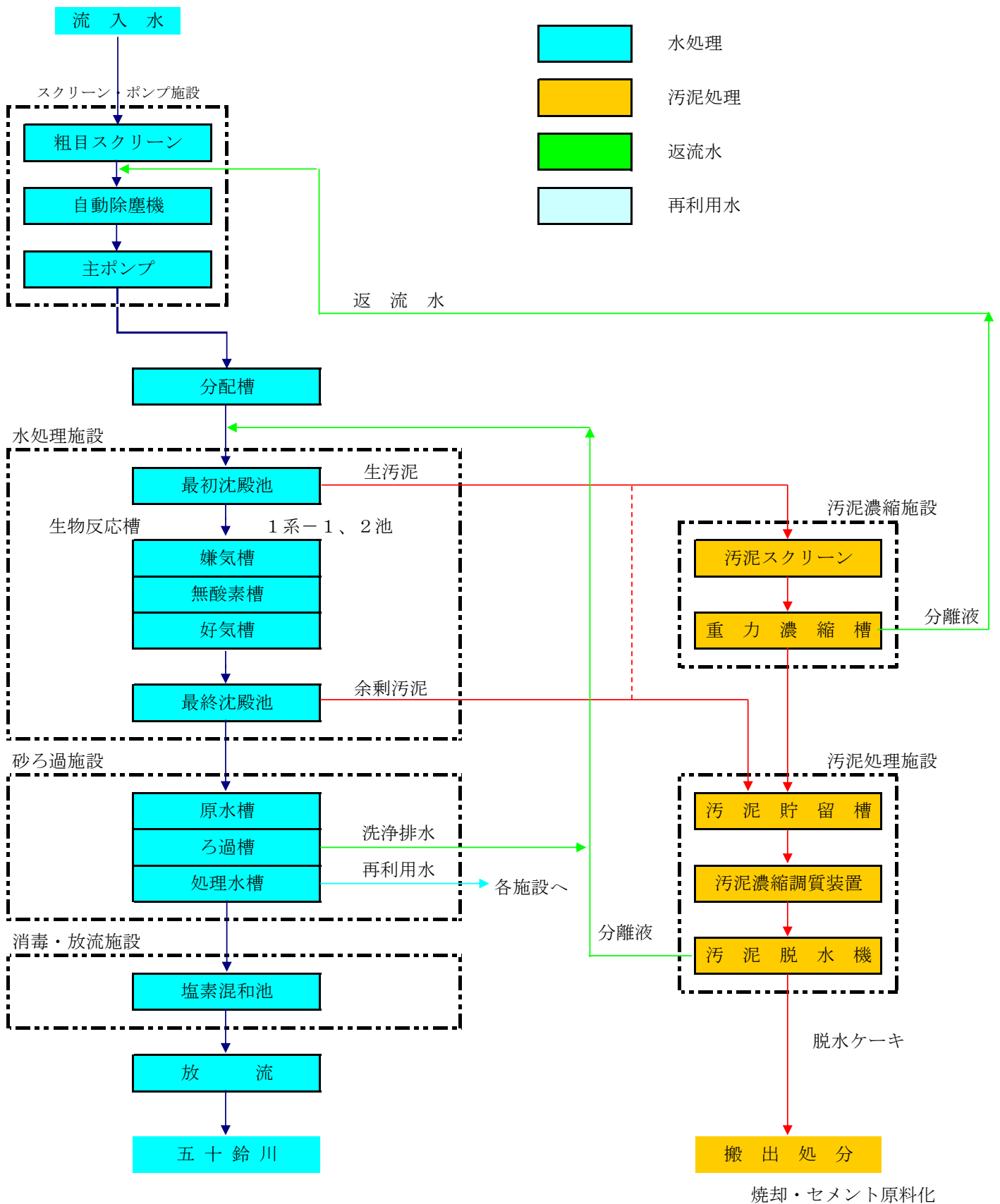
施設	設備	機器名	規格又は仕様	電気容量 (kw)	台数
水処理施設	分配槽設備	分配槽攪拌機	水中プロペラ式(浮遊式)、113Φ	2.20	2
		分配槽攪拌機吊上装置	手動式ギヤードトローリ無し、0.5ton×3m	—	2
		床排水ポンプ(管理本館～SP棟)	脱着式水中汚水ポンプ 65Φ×0.3m ³ /分×8m	1.50	4
		床排水ポンプ吊上装置(管理本館～SP棟)	手動式、0.5ton×2.5m	—	2
		西側植樹用給水ユニット	圧力式自動給水ユニット40Φ×0.23m ³ /分×46m	3.70	1
	最初沈殿池設備	初沈バイパスゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、800W×600H	—	1
		初沈流入可動堰	手動式鋳鉄製外ねじ式、400W×400H	—	4
		初沈汚泥掻寄機	チェーンフライト式、3900W×19000L	0.40	4
		初沈スカムスキマ	電動式パイプスキマ、300Φ	0.13	4
		初沈汚泥引抜弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	4
		初沈汚泥ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×1m ³ /分×17m	7.50	2
		初沈スカム移送ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×1m ³ /分×19m	7.50	2
		初沈スカム戻り弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	1
		初沈スカム移送弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	1
		初沈排水ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×1m ³ /分×8m	3.70	1
		床排水ポンプ(初沈)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×13m	2.20	1
		空気源装置(初沈)	圧力スイッチ式、120L/分×0.83MPa	1.50	2
		空気源装置(終沈)	圧力スイッチ式、120L/分×0.83MPa	1.50	2
		空気槽(初沈)	立形円筒槽、1m ³	—	1
		空気槽(終沈)	立形円筒槽、1m ³	—	1
		除湿器(初沈)	冷凍式、120L/分	0.40	1
		除湿器(終沈)	冷凍式、120L/分	0.40	1
	初沈引抜弁用電磁弁箱	SUS製、電磁弁4個収納(全6個収納)	8W	1	
	初沈スカム切替弁用電磁弁箱	SUS製、電磁弁2個収納	8W	1	
	反応槽設備	反応槽バイパスゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、800W×600H	—	1
		バイパス水路仕切ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、800W×600H	—	1
		反応槽流入調整弁	電動偏心構造弁、350Φ	0.75	2
		嫌気槽攪拌機	水中機械式、8000W×9000L×5500H	3.70	2
		無酸素槽攪拌機	水中機械式、8000W×9000L×5500H	3.70	10
		好気槽攪拌機	水中機械式、8000W×9000L×5500H	3.70	4
		好気槽散気装置	全面曝気式、8000W×9000L×5500H、有効発泡面積比3.57%	—	1
		1系No.2-1～2-5好気槽散気装置	メンブレンパネル式、8000W×9000L×5500H	—	5
		反応槽仕切ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、500W×500H	—	2
		初期用循環ポンプ	着脱式水中汚水ポンプ、100Φ×1.8m ³ /分×5m	5.50	1
		循環ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、200Φ×3.7m ³ /分×4.5m	5.50	4
		曝気用空気調整弁	電油操作式蝶形弁、200Φ	0.40	2
		床排水ポンプ(反応槽)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×13m	2.20	6
	床排水ポンプ(送気管ピット)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×13m	2.20	1	
	水中攪拌機吊上装置	手動式、1ton×4m	—	1	
	最終沈殿池設備	終沈流入ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、400W×400H	—	4
		終沈汚泥掻寄機	チェーンフライト式、3900W×47000L	0.40	4
		終沈スカムスキマ(前段)	手動式パイプスキマ、300Φ	—	2
終沈スカムスキマ(前段)		電動式パイプスキマ、300Φ	0.13	2	
終沈スカムスキマ(後段)		電動式パイプスキマ、300Φ	0.13	4	
終沈汚泥引抜弁		空気作動偏心構造弁、200Φ	—	4	
返送汚泥ポンプ		吸込スクリー付汚泥ポンプ、250Φ×5.7m ³ /分×8m	15.00	2	
余剰汚泥ポンプ		吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×0.9m ³ /分×15.5m	5.50	2	
終沈スカム移送ポンプ	吸込スクリー付汚泥ポンプ、100Φ×1m ³ /分×19m	7.50	2		

施設	設備	機器名	規格又は仕様	電気容量 (kw)	台数
水処理施設	最終沈殿池設備	終沈スクラム戻り弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	1
		終沈スクラム移送弁	空気作動偏心構造弁、150Φ	—	1
		終沈排水ポンプ	吸込スクリュウ付汚泥ポンプ、150Φ×3m ³ /分×14m	15.00	1
		終沈引抜弁用電磁弁箱	SUS製、電磁弁4個収納(全6個収納)	8W	1
		終沈スクラム切替弁用電磁弁箱	SUS製、電磁弁2個収納	8W	1
		床排水ポンプ(終沈)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×13m	2.20	3
		床排水ポンプ吊上装置(初沈)	手動式、0.5ton×4m	—	1
		床排水ポンプ吊上装置(反応槽)	手動式、0.5ton×2.5m	—	3
		床排水ポンプ吊上装置(送気管ピット)	手動式、0.5ton×4m	—	1
		床排水ポンプ吊上装置(終沈)	手動式、0.5ton×4m×1台、0.5ton×2.5m×1台	—	2
		終沈汚泥引抜管仕切弁	手動仕切弁、400Φ	—	2
	薬注設備	PAC貯留タンク	FRP製円筒タンク、7m ³	—	1
		PAC注入ポンプ	ダイヤフラム式、25Φ×0.349~0.643L/分×0.2MPa	0.40	3
	脱臭設備	No.1水処理脱臭ファン	片吸込ターボファン、58m ³ /分×2.45kPa	5.50	1
		No.2水処理脱臭ファン	片吸込ターボファン、49m ³ /分×2.8kPa	5.50	1
		No.1水処理脱臭装置	添着活性炭吸着塔、58m ³ /分	—	1
		No.2水処理脱臭装置	添着活性炭吸着塔、49m ³ /分	—	1
		No.1活性炭搬出入クレーン(水処理)	手動式ギヤードトリ付、1ton×5m	—	1
	ブロウ棟	湿式空気ろ過器(第1ブロウ棟)	回転油膜式湿式空気ろ過器、313m ³ /分	0.20	1
		乾式空気ろ過器(第1ブロウ棟)	自動巻取り型乾式空気ろ過器、313m ³ /分	0.20	1
		ブロウ(第1ブロウ棟)	ルーツ形(水冷式)、200Φ×29m ³ /分×64kPa	—	2
		ブロウ用電動機(第1ブロウ棟)	横軸三相誘導電動機	75.00	2
		ブロウ放風弁(第1ブロウ棟)	電油操作式蝶形弁、65Φ	0.40	2
No.3ブロウ(第1ブロウ棟)		歯車増速単段ターボ形(水冷式)、200Φ×51m ³ /分×67kPa	—	1	
No.3ブロウ吐出弁(第1ブロウ棟)		電動外ねじ仕切り弁、200Φ	0.75	1	
No.3ブロウ放風弁(第1ブロウ棟)		電油操作式蝶形弁、150Φ	0.40	1	
No.1空気弁(A)		手動式バタフライ弁、700Φ	—	1	
No.2空気弁(B)		手動式バタフライ弁、700Φ	—	1	
冷却水ポンプ(第1ブロウ棟)		形吸込渦巻ポンプ、65Φ×0.35m ³ /分×16m	2.20	2	
ブロウ点検用クレーン(第1ブロウ棟)		手動式(チェンブロック式)、3.5ton×12m	—	1	
床排水ポンプ(第1ブロウ棟)		着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×7m	1.50	3	
床排水ポンプ吊上装置(第1ブロウ棟)		手動式、0.5ton×2.7m	—	2	
砂ろ過水切替弁(第1ブロウ棟)		電動ボール弁、80Φ	23W	1	
砂ろ過施設	砂ろ過設備	砂ろ過設備流入ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、600W×1200H	—	2
		高度処理スクリーン	1000W×2700H×目幅3mm	0.40	1
		原水槽流入ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、600W×1200H	—	2
		原水槽連絡ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、600W×600H	—	1
		1系No.1砂ろ過設備バイパスゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、900W×1300H	—	1
		1系No.2砂ろ過設備バイパスゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、1100W×1000H	—	1
		原水槽流出ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、900Φ	—	2
		1系No.1原水ポンプ	横軸渦巻斜流ポンプ、300Φ×12m ³ /分×10m	30.00	1
		1系No.2原水ポンプ	横軸渦巻斜流ポンプ、400Φ×20m ³ /分×10m	55.00	1
		1系No.1原水ポンプ吐出弁	電動バタ弁、300Φ	0.20	1
		1系No.2原水ポンプ吐出弁	電動バタ弁、400Φ	0.20	1
		1系No.2原水ポンプ吸込弁	手動仕切弁、400Φ	—	1
		1系No.2原水ポンプ逆止弁	緩閉式逆止弁、400Φ	—	1
		1系No.3~4原水ポンプ吸込弁	手動仕切弁、500Φ	—	2
		原水管止水弁	手動バタ弁、700Φ	—	2
		原水戻り弁	電動バタ弁、250Φ	0.20	1
		調圧水槽可動堰	手動式鋳鉄製外ねじ式、800W×600H	—	2
		1系No.1-1砂ろ過池	上向流移床型、10m ²	—	1
		1系No.1-2砂ろ過池	上向流移床型、15m ²	—	1
		1系No.2砂ろ過池	上向流移床型、25m ³	—	1
砂ろ過池バイパスゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、1000Φ	—	1		

施設	設備	機器名	規格又は仕様	電気容量 (kw)	台数		
		未消毒水槽流入ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、800W×800H	—	2		
		処理水槽流入ゲート	手動式鋳鉄製外ねじ式、800W×800H	—	2		
		洗浄用空気圧縮機	水冷式オイルフリー揺動式、1.7m ³ /分×200kPa	7.50	2		
		No.3洗浄用空気圧縮機	水冷式オイルフリー揺動式、4.0m ³ /分×200kPa	15.00	1		
		空気槽(砂ろ過)	立形円筒槽、200L	—	3		
		空洗電動ボール弁箱	SUS製、4個収納	—	1		
		No.2空洗電動ボール弁箱	SUS製、2個収納	—	1		
		洗浄排水ポンプ	無閉塞汚泥ポンプ、100Φ×1.6m ³ /分×8m	11.00	2		
		洗浄排水ポンプ吐出弁	電動仕切弁、100Φ	0.20	2		
		消泡水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、80Φ×0.8m ³ /分×35m	11.00	3		
		消泡水ポンプ吐出弁	電動バタフライ弁、300Φ	0.40	1		
		水処理砂ろ過散水給水ユニット	圧力式自動給水ユニット、65Φ×0.44m ³ /分×35m	5.50	1		
		水処理軸封水用給水ユニット	圧力式自動給水ユニット、65Φ×0.48m ³ /分×39m	7.50	1		
		東側植樹用給水ユニット	圧力式自動給水ユニット、40Φ×0.20m ³ /分×46m	3.70	1		
		SP棟送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、80Φ×0.8m ³ /分×5m	3.70	2		
		プロワ棟送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、65Φ×0.4m ³ /分×6m	2.20	2		
		管理本館送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、50Φ×0.25m ³ /分×19m	1.50	2		
		汚泥処理棟送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、125Φ×2.3m ³ /分×11m	7.50	2		
		親水用水設備送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、40Φ×0.15m ³ /分×33m	2.20	2		
		生物脱臭送水ポンプ	片吸込渦巻ポンプ、65Φ×0.45m ³ /分×7m	2.20	1		
		床排水ポンプ(砂ろ過)	自給式渦巻きポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×14m	2.20	4		
		床排水ポンプ(砂ろ過管廊)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×14m	2.20	2		
		床排水ポンプ吊上装置(砂ろ過管廊)	手動式、0.5ton×2.5m	—	1		
		機器搬入用吊上装置	電動式チェーンブロック駆、1ton×11m	1.70	1		
		消毒施設	消毒設備	次亜塩貯槽	立形定置式、5.1m ³	—	1
				放流水次亜塩注入ポンプ	15Φ×0.02~0.308L/分×0.5MPa	0.20	2
放流水次亜塩注入ポンプ	15Φ×0.04~0.53L/分×0.5MPa			0.20	1		
機械用水次亜塩注入ポンプ	0.27L/分×0.34MPa			24W	2		
塩素混和池流入ゲート	手動式、1000W×1000H			—	2		
塩素混和池バイパスゲート	手動式、1400W×1400H			—	1		
濃縮汚泥施設	濃縮汚泥設備	初沈汚泥用スクリーン	回転スクリーン式、2.4m ³ /分×4mm幅	0.75×2	1		
		初沈スカムスクリーン	回転スクリーン式、2.4m ³ /分×3mm幅	0.75×2	1		
		終沈スカムスクリーン	回転スクリーン式、2.4m ³ /分×3mm幅	0.4×2	1		
		し渣搬出コンベヤ	無軸スクリュウコンベヤ、1.1ton/時以上×搬送距離9850mm	0.75	1		
		し渣脱水機	スクリュウ式、1.1m ³ /時	5.5+0.4	1		
		し渣ホッパー	電動式鋼板製、4m ³	0.75×2	1		
		濃縮汚泥搔寄機	中央駆動懸垂型、7.5mΦ×4m	0.75	1		
		濃縮汚泥引抜弁	電動偏心構造弁、150Φ	0.40	1		
		濃縮汚泥引抜ポンプ	一軸ネジ式、125Φ×0.9m ³ /分×0.12MPa	7.50	2		
		床排水ポンプ(汚泥スクリーン)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m ³ /分×16m	3.70	2		
		床排水ポンプ吊上装置(汚泥スクリーン)	手動式チェーンブロック、0.5ton×3.5m	—	1		
		初沈スカム切替弁(重力槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1		
		初沈スカム切替弁(貯留槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1		
		終沈スカム切替弁(重力槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1		
		終沈スカム切替弁(貯留槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1		
		送泥切替弁(重力槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1		
		送泥切替弁(貯留槽)	手動仕切弁、200Φ	—	1		
		送泥切替弁(連絡弁)	手動仕切弁、200Φ	—	1		
維持管理用吊上装置	電動式チェーンブロック、1ton×12.7m	1.70	1				

施設	設備	機器名	規格又は仕様	電気容量 (kw)	台数
濃縮汚泥施設	脱臭設備	汚泥スクリーン棟生物脱臭装置	充填塔式生物脱臭装置、46m3/分	12.90	1
		汚泥スクリーン棟脱臭ファン	片吸込ターボファン、46m3/分×3.63kPa	7.50	1
		汚泥スクリーン棟吸着脱臭装置	添着活性炭吸着塔、46m3/分	—	1
		し渣搬出室用脱臭ファン	片吸込ターボファン、59m3/分×2.05kPa	3.70	1
		し渣搬出室用脱臭装置	添着活性炭吸着塔、59m3/分	—	1
		し渣搬出室用脱臭ダンパ	電動ダンパ、□400	0.04	1
		活性炭搬出入クレーン(重力濃縮)	手動式チェーンブロック、1ton×5.7m	—	1
汚泥処理棟	汚泥脱水設備	余剰汚泥切替弁	空気作動偏芯構造弁(複作動形)、200Φ	—	3
		重力濃縮汚泥切替弁	空気作動偏芯構造弁(複作動形)、150Φ	—	3
		No.1～2濃縮汚泥貯留槽攪拌機	立型パドル式、羽根径約2000mmΦ	7.50	2
		No.3濃縮汚泥貯留槽攪拌機	立型パドル式、羽根径約2250mmΦ	7.50	1
		汚泥供給ポンプ	一軸ネジ式、150Φ×0.23～0.7m3/分×11m	11.00	3
		薬品定量フィーダ	容積式、890～2670CC/分、ホッパ容量400L	0.40	2
		薬品溶解タンク	鋼板製円筒形、8m3	3.70	2
		薬品供給ポンプ	一軸ネジ式、50Φ×14.6～43.9L/分×17m	2.20	3
		無機凝集剤貯槽	FRP製円筒タンク、9m3	—	1
		無機凝集剤注入ポンプ	ダイヤフラム式、25Φ×0.91～1.22L/分×0.3MPa	0.20	3
		汚泥脱水機	ベルトプレス、ろ布幅1.5m×180kg-DS/m・時	4.45	2
		造粒調質装置	造粒調質ユニット、0.27tds/時	11.20	2
		ケーキ搬送コンベヤ	トラフ形ベルトコンベヤ、W600mm×L16800mm、20m/min	1.50	1
		ケーキ貯留ホッパ	電動式鋼板製、10m3	1.5×2	1
		空気圧縮機(汚泥処理)	パッケージ式、1200L/分×0.83MPa	11.00	2
		空気槽(汚泥処理)	立形円筒槽、1m3	—	1
		除湿器(汚泥処理)	冷凍式、1.34m3/分	0.25	1
		砂ろ過水切替弁(汚泥処理)	空気作動ボール弁(複作動形)、200Φ	—	1
		ろ布洗浄水ポンプ	多段渦巻ポンプ、50Φ×0.3m3/分×65m	7.50	3
		汚泥処理棟給水ユニット	50Φ×0.6m3/分×63m	7.5×2	1
		No.1～2分離液移送ポンプ	吸込スクリュ付汚泥ポンプ、100Φ×1.0m3/分×9m	5.50	2
		No.3～4分離液移送ポンプ	吸込スクリュ付汚泥ポンプ、150Φ×2.0m3/分×9m	11.00	2
		No.1～2分離液貯留槽攪拌機	立型パドル式、羽根径約2000mmΦ	7.50	2
		No.3分離液貯留槽攪拌機	立型パドル式、羽根径約2250mmΦ	7.50	1
		床排水ポンプ(汚泥処理)	着脱式水中汚水ポンプ、65Φ×0.3m3/分×16m	3.70	4
		天井クレーン	サスペンション形手動チェーンブロック、2.5ton×スパン10.8m×揚程8.15m	—	1
		薬品コンテナ吊上装置	電動式チェーンブロック、2ton×12m	1.7+0.4	1
		床排水ポンプ吊上装置(汚泥処理)	手動式チェーンブロック、0.5ton×3.5m	—	2
		余剰汚泥切替弁用電磁弁箱	SUS製、3個(全4個収納)	—	1
		濃縮汚泥切替弁用電磁弁箱	SUS製、3個(全4個収納)	—	1
		砂ろ過水切替弁用電磁弁箱	SUS製、2個(全2個収納)	—	1
		薬品引抜弁用電磁弁箱	SUS製、2個(全2個収納)	—	1
		無機凝集剤引抜弁用電磁弁箱	SUS製、1個(全2個収納)	—	1
		消臭剤噴霧装置	定量電磁ポンプ(タンク付)、400mL/分×0.2MPa	24W×3	1
		No.1維持管理用吊上装置	手動式キャートトリ、1.0ton×7.25m	—	1
No.2維持管理用吊上装置	電動式チェーンブロック、1.0ton×11.4m	1.70	1		
脱臭設備	脱臭設備	汚泥処理棟生物脱臭装置	充填塔式生物脱臭装置、56m3/分	13.65	1
		汚泥処理棟脱臭ファン	片吸込ターボファン、56m3/分×3.53kPa	7.50	1
		汚泥処理棟吸着脱臭装置	添着活性炭吸着塔、56m3/分	—	1
		ケーキ搬出室用脱臭ファン	片吸込ターボファン、63m3/分×1.96kPa	5.50	1
		ケーキ搬出室用脱臭装置	添着活性炭吸着塔、63m3/分	—	1
		ケーキ搬出室用脱臭切替ダンパ	電動式ダンパ、□450	0.04	1
		活性炭搬出入クレーン(汚泥処理)	手動式チェーンブロック、1.0ton×5.4m	—	1
環境ゾーン	送水設備	カエル循環ポンプ	水中ポンプ、50Φ×0.0935m3/分×40.3m	3.70	1
		トンボ送水ポンプ	水中ポンプ、50Φ×0.0935m3/分×40.3m	3.70	1
		NO.1トンボ送水ポンプ(海水)	水中ポンプ、50Φ×0.0438m3/分×15m	0.75	1
		NO.2トンボ送水ポンプ(海水)	水中ポンプ、50Φ×0.0438m3/分×15m	0.75	1
		NO.1トンボ排水ポンプ(海水)	水中ポンプ、50Φ×0.280m3/分×7m	1.50	1
		NO.2トンボ排水ポンプ(海水)	水中ポンプ、50Φ×0.280m3/分×7m	1.50	1
		淡水貯水池ポンプ	水中ポンプ、32Φ×0.070m3/分×5m	0.75	1

(5) 宮川浄化センター処理フロー



(6) 水質管理状況

ア 水処理管理状況の概要

(ア) 流入水量

平成 18 年 6 月 1 日に供用を開始した宮川浄化センターの平成 18 年度の流入水量は 1,122m³/日であったのに比べ、平成 19 年度の流入水量は 3,013m³/日、平成 20 年度は 4,247m³/日、平成 21 年度は 5,539m³/日、平成 22 年度は 6,715m³/日と、年毎に増加している。

(イ) 流入水質 (BOD、COD、SS、全窒素、全りん及び有害物質等)

平成 22 年度における流入水質は、BOD は 130mg/l、COD は 110mg/l、SS は 190mg/l、全窒素は 36mg/l、全りんは 4.1mg/l であり、平成 18 年度と比較すると高くなっているが、平成 19 年度の数値とはほぼ変化がなかった。これは平成 18 年度の供用開始当初の流入水が低濃度であったが、その後濃度がほぼ一定になったことが考えられる。

BOD、COD、SS、全窒素及び全りんは、多少のばらつきはあるものの、年間を通してほぼ変化がなかった。

有害物質 27 項目について、亜鉛、アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物を除き、全て報告下限値未満であった。

(ウ) 放流水質 (BOD、COD、SS、全窒素、全りん及び有害物質等)

平成 22 年度の放流水質は、BOD、COD、SS 全窒素及び全りんは良好な結果となっている。

有害物質 27 項目については、アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物を除き、全て報告下限値未満であった。

供用開始以後の流入水質及び放流水質 (各年度平均) (単位 : mg/l)

	流入水質			放流水質		
	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
BOD	200	130	130	1.6	1.3	0.8
COD	110	100	110	7.7	7.5	6.7
SS	170	160	190	<1	<1	<1
全窒素	33	34	36	7.3	7.1	6.7
全りん	3.8	3.7	4.1	0.2	0.1	0.1
有害物質等	報告下限値以下	報告下限値以下	報告下限値以下	報告下限値以下	報告下限値以下	報告下限値以下

(エ) 環境保全に係る取り組み

a 水質自主管理目標値の設定

放流水質についての水質自主管理目標値は、法令（下水道法、水質汚濁防止法）による基準よりさらに低い値を設定しており、特に全窒素及び全りん（りん）の抑制は、周辺海域の富栄養化防止に係る重要因子であることから、厳しい値を目標値としている。

法令の排水基準及び水質自主管理目標値（単位：mg/l pH 除く）

	法令の排水基準	水質自主管理目標値（年平均）
BOD	15	10
COD	—	10
SS	40	10
pH	5.8～8.6	5.8～8.6
全窒素	10	9
全りん	1.0	0.5

b 放流水の適切な消毒

処理水の放流に伴う大腸菌などによる汚染を避ける必要性から次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行っているが、残留塩素を極力低減化し、放流先水域の水生生物等に影響を及ぼさないようにしている。

次亜塩素酸ナトリウムの注入率は、上半期は放流水中の大腸菌群数が0～数個となることを目標とした。下半期は、県からの要請により、有効塩素として0.1mg/Lとなるように注入した。

(オ) 処理水の利用

管理本館内の水洗トイレの洗浄水及び場内植栽への撒き水として利用を図るとともに、自然環境保全を目標としたカエルゾーンやトンボゾーンでも活用している。

イ 月別の水処理状況

平成 18 年 6 月 1 日の供用開始から 4 年目を迎えたが、平成 22 年 4 月の日平均処理水量が、**5,934m³**であったのに比べて、平成 23 年 3 月の日平均処理水量は、**6,863m³**であり、この 1 年間で 1 日あたりの平均処理水量は、約 16%増加しており、処理区域の拡張を反映している。水量増加に対応するため生物反応槽を従来の 1 池から 2 池とした。

4 月

20mm 以上の降雨が 4 回あった。

窒素、りんともに処理は安定しており、T-N 濃度日間平均値及び T-P 濃度日間平均値ともに管理目標値を超えることはなかった。

5 月

5 月中に 20mm 以上の降雨は 2 回あり、最大は 83mm であった。

MLSS 濃度は 3,100 mg/l と 4 月に比べ 200 mg/l 下げたが、2 池使用準備のため高いレベルを維持している。

窒素、りんともに処理は安定しており、T-N 濃度日間平均値及び T-P 濃度日間平均値ともに管理目標値を超えることはなかった。

6 月

20mm 以上の降雨は 3 回あった。

引き続き窒素、りんともに処理は安定しており、T-N 濃度日間平均値及び T-P 濃度日間平均値ともに管理目標値を超えることはなかった。

7 月

20mm 以上の降雨は 5 回あった。

8 月の 2 池使用に向け MLSS 濃度は 3,000 mg/l 以上を維持した。

T-N 濃度日間平均値及び T-P 濃度日間平均値ともに管理目標値を超えることはなかった。

8 月

20mm 以上の降雨は 2 回あった。

流入水量増加に対応するため月末に生物反応槽の 2 池使用を開始した。

T-N 濃度日間平均値及び T-P 濃度日間平均値ともに管理目標値を超えることはなかった。

9月

20mm以上の降雨は4回あった。

2池使用によりMLSS濃度は約2,100 mg/lに低下した。

窒素処理は安定しており、T-N濃度日間平均値は管理目標値を超えることはなかったが、りん処理が不安定となる時期があり、PAC注入により対応した。

10月

20mm以上の降雨は4回あり、最大は179.5mmで、平成22年度の最大であって、流入渠水位が2.5mまで上昇した。

MLSS濃度は約2,100 mg/l前後で推移した。

窒素、りんともに処理は安定しており、T-N濃度日間平均値及びT-P濃度日間平均値ともに管理目標値を超えることはなかった。

11月

20mm以上の降雨は2回あった。

年末、年始の流入汚濁負荷の増加に備え、MLSS濃度を2,200 mg/lに上げた。

窒素、りんともに処理は安定しており、T-N濃度日間平均値及びT-P濃度日間平均値ともに管理目標値を超えることはなかった。

12月

20mm以上の降雨は4回あった。

年末、年始の流入汚濁負荷の増加に備え、引き続きMLSS濃度を2,500 mg/lに上げた。

T-N上昇抑制対策の一つとして、生物反応槽へのメタノール注入による窒素除去効果を検討したところ、メタノール添加の方が無添加の対照に比べT-Nが約1 mg/l低下した。

1月

年末、年始の流入汚濁負荷の増加、特に年始の窒素負荷の増加に伴うT-N上昇抑制対策としては、MLSS濃度の増加、硝化液循環量の増加、初沈越流水の希釈及び生物反応槽へのメタノール注入により対応を図った。

この結果、窒素については、例年処理が不安定となる年始も含めて安定した処理を行うことができ、T-N濃度日間平均値は管理目標値を超えることはなかった。

一方、りん処理は不安定となる時期があり、PAC注入により対応した。

1月は降雨が観測された日はなかった。

2月

降雨量が 20mm 以上となる日はなかった。

MLSS 濃度は1池、2池とも 2,900mg/l 前後であった。

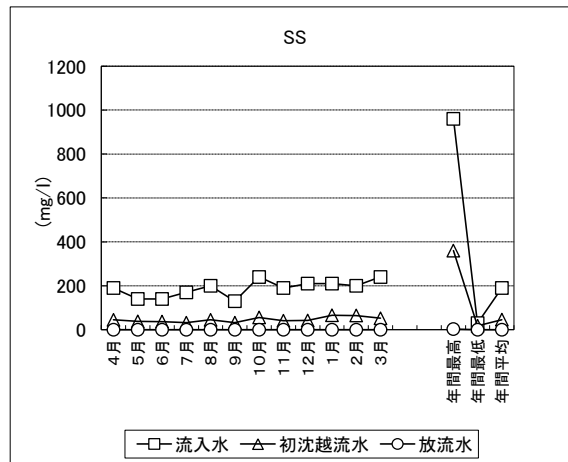
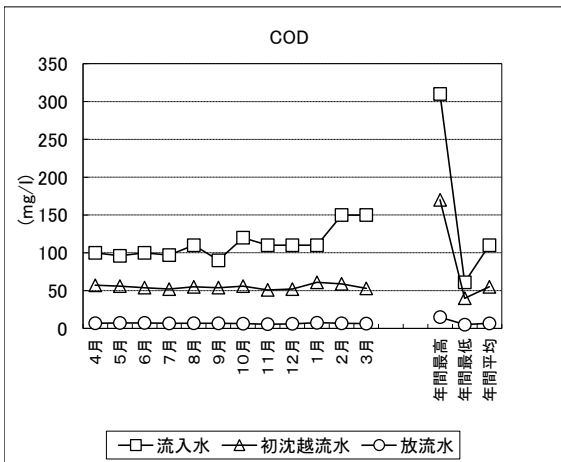
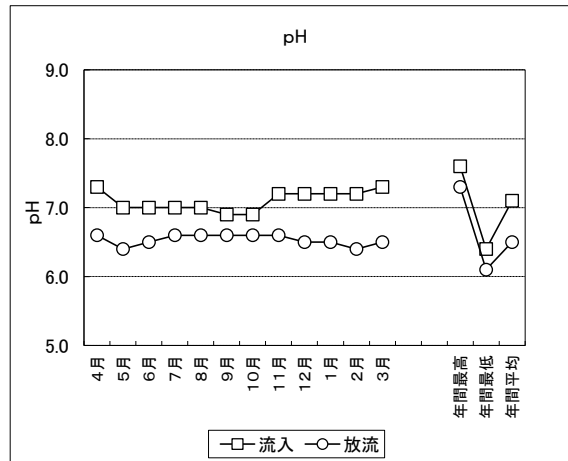
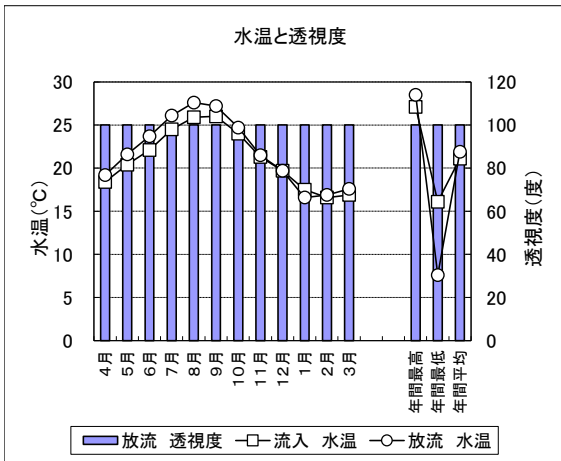
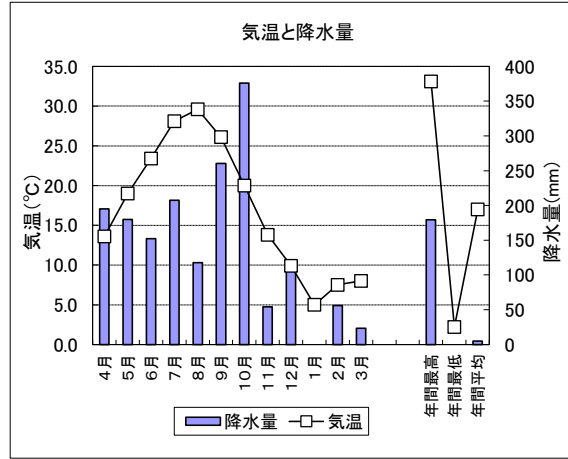
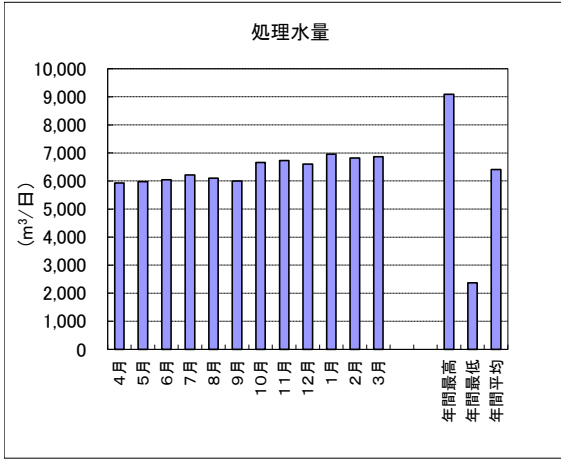
窒素、りんともに処理は安定しており、T-N濃度日間平均値及びT-P 濃度日間平均値ともに管理目標値を超えることはなかった。

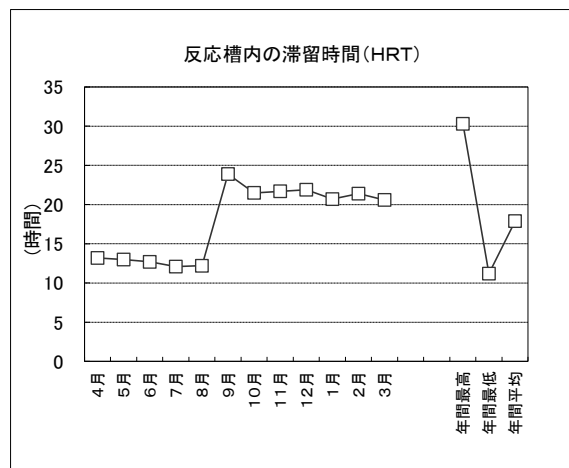
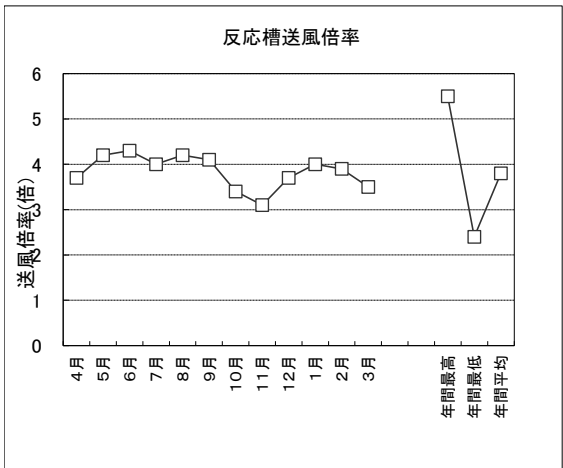
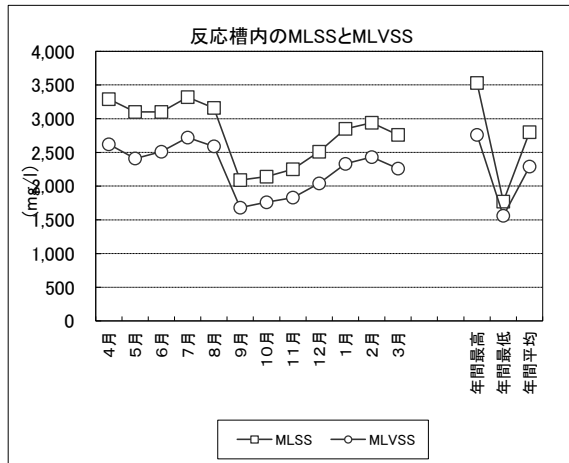
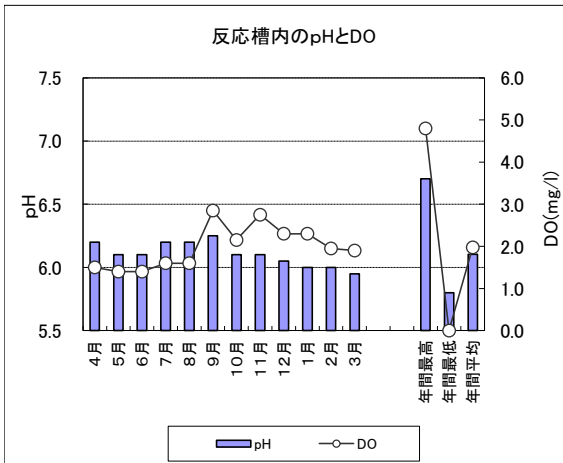
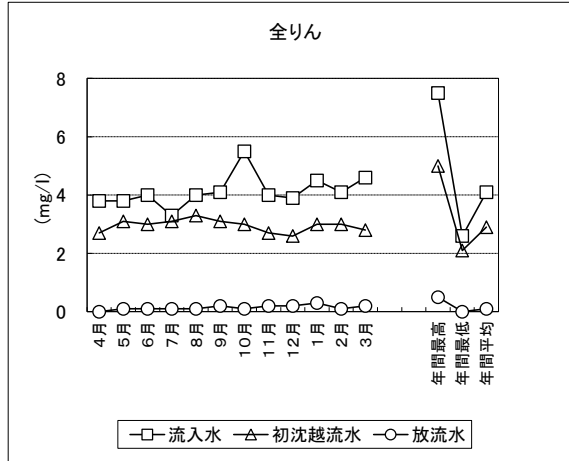
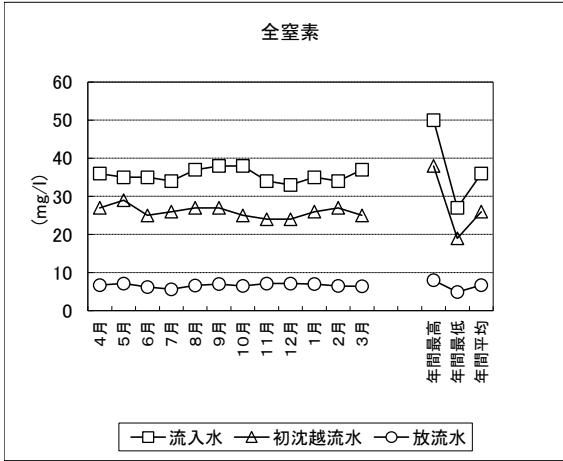
3月

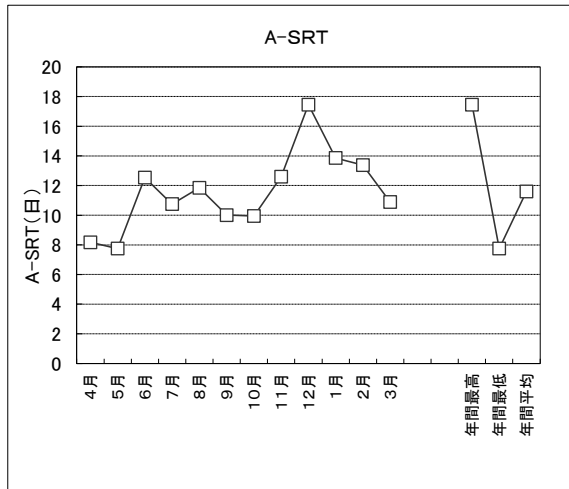
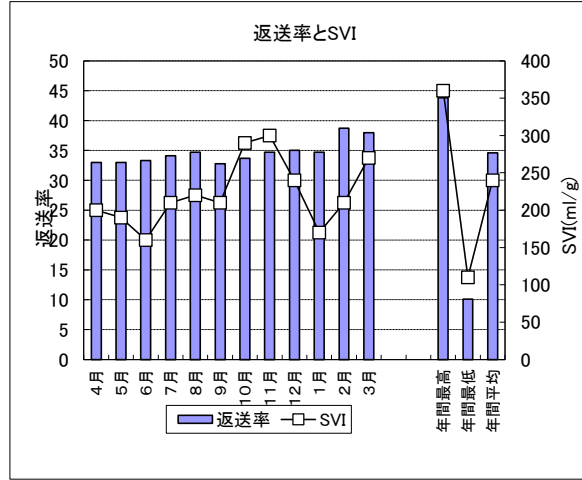
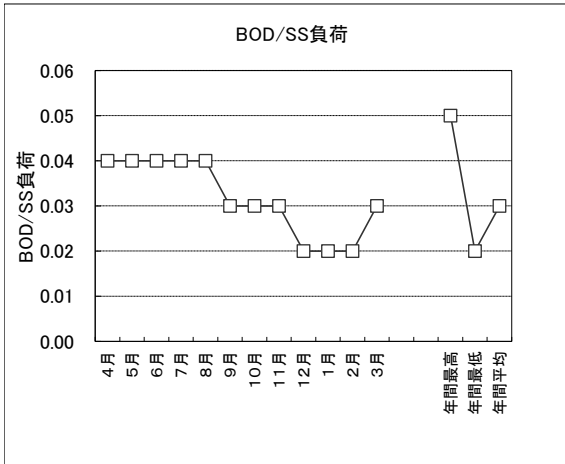
年明け以降少雨の傾向が続き、3月も降雨量が 20mm 以上となる日はなかった。

MLSS 濃度は1池 2,800mg/l、2池とも 2,600mg/l に下げた。

窒素、りんともに処理は安定しており、T-N濃度日間平均値及びT-P 濃度日間平均値ともに管理目標値を超えることはなかった。







備考

1. 各月のデータは、その月平均値。
2. 年間最高値は、年間の総データの最高値。
3. 年間最低値は、年間の総データの最低値。
4. 年間平均値は、月平均の平均値。
5. ただし、降水量の各月のデータは、日降水量の累積値で、年間値は日降水量の値。

施設点検業務の概要

施設点検整備概要		
番号	工事名称	整備内容
1	No.1-1, No.1-2 循環ポンプ分解整備工事	循環ポンプの分解整備

設備故障状況及び処置概要		
年月	名称及びその状況	処置方法
22 4	初沈流入pH計 電極破損	pH計電極取替
	No.2薬品溶解タンク 液位計用配管漏液	配管取替
	No.1汚泥脱水機 圧搾ベルト蛇行(2回) 軸が空転する	軸と歯車を固定する/パワーロック増締め
	トンボゾーン淡水供給調整池排水ポンプ 過電流にて停止	排水ポンプ取替
22 5	初沈汚泥スクリーン レーキローラ摩耗	レーキローラ取替
	汚泥スクリーン棟 No.1中和槽 排水ポンプ異音	ポンプ軸受交換
22 6	汚泥処理棟給水ユニット配管接続箇所より漏水	配管取替
	汚泥処理棟 操作室 空調機の動作不良	基盤交換
22 7	No.1機械用水次亜塩注入ポンプ ポンプ取り付けボルト折損	部品交換
	機械用水次亜塩注入ポンプ 吐出不良	ホースに取替えて経過観察中
	SP棟 B階段 B1～B2 蛍光灯点灯不良	安定器取替
	SP棟 B階段 B2～B3 蛍光灯点灯不良	安定器取替
22 8	多目的広場 遊具リス スプリング取り付けボルト緩み	ボルト増締め
	西側道路 標識 破損	標識取替
22 9	残留塩素計 試薬液タンク内攪拌ポンプ 異音	ポンプ交換
	1-2循環ポンプ メカニカルシール不良	修繕(分解整備)実施
	管廊 誘導灯 ランプ切れ	誘導灯交換
	SP棟 流入渠pH計 校正不良	pH計電極取替
	SP棟 流入渠pH計 電極破損	pH計電極取替
22 10	1系原水戻り弁 動作不良	ソフトウェア修正
	SP棟 B階段 1階 蛍光灯点灯不良	安定器取替
	トンボゾーンNo.1トンボ送水ポンプ(海水)故障	送水ポンプ取替
	多目的広場 遊具(複合遊具)落書き及び損傷	落書き除去及び損傷部補修
22 11	トンボ既存生息地送水用ポンプ故障	送水ポンプ取替
23 1	SP棟階段室A コンクリートの一部破損	宮川下水道室にて対応、修繕実施
1	管理本館 中央監視室アルミサッシ 破損	部品交換
1	管理本館 窓枠の腐食	補修
1	管理本館 玄関床タイルの破損及び沈下	補修
2	No.1排ガス処理装置pH電極用 浸漬形ホルダー破損	ホルダー交換
2	正門ゲート 車止めボール破損	ボール交換
3	多目的広場 西側駐車場 車止めボール破損	ボール交換
3	汚泥処理棟生物脱臭装置 No.1循環タンクpH計 破損	部品交換

(11)水質試験業務

ア. 流入、放流水質試験

項目 月	気温	水温		透視度		pH		SS		BOD		COD		溶解性TOC	
	°C	°C		度		-		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l	
単位		流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
区分															
4月	13.6	18.4	19.2	4	100	7.3	6.6	190	<1	150	0.8	100	6.9	37	4.4
5月	19.0	20.4	21.6	4	100	7.0	6.4	140	<1	130	1.2	96	7.3	38	4.2
6月	23.4	22.1	23.7	4	100	7.0	6.5	140	<1	140	1.2	100	7.4	41	4.0
7月	28.1	24.5	26.1	4	100	7.0	6.6	170	<1	100	0.9	97	6.7	34	3.5
8月	29.6	25.9	27.6	3	100	7.0	6.6	200	<1	97	1.0	110	6.9	35	3.5
9月	26.1	26.0	27.2	4	100	6.9	6.6	130	<1	89	0.7	90	6.8	35	3.3
10月	20.0	24.0	24.7	3	100	6.9	6.6	240	<1	200	0.5	120	6.3	35	3.4
11月	13.8	21.3	21.5	3	100	7.2	6.6	190	<1	93	0.3	110	5.7	28	3.2
12月	9.9	19.7	19.7	3	100	7.2	6.5	210	<1	110	0.4	110	6.2	29	3.3
1月	5.0	17.5	16.6	3	100	7.2	6.5	210	<1	110	1.7	110	7.5	28	4.1
2月	7.5	16.6	16.9	3	100	7.2	6.4	200	<1	150	0.7	110	6.8	36	3.9
3月	8.0	16.9	17.6	3	100	7.3	6.5	240	<1	150	0.4	120	6.4	33	4.6
最高	33.1	27.1	28.5	7	100	7.6	7.3	960	3	270	5.6	310	15.0	52	7.1
最低	2.2	16.1	7.6	1	100	6.4	6.1	30	<1	76	0.1	61	5.0	24	2.7
平均	17.0	21.1	21.9	3	100	7.1	6.5	190	0	130	0.8	110	6.7	34	3.8
測定回数	242	242	242	241	243	242	242	241	241	51	51	241	241	51	51
放流基準値			—		—		5.8~8.6		40		20		—		—

項目 月	電気伝導率		大腸菌群数		遊離 残留塩素	全蒸発残留物		強熱減量		塩化物イオン		よう素消費量		全窒素	
	mS/m		個/cm ³		mg/l	mg/l		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l	
単位	流入	放流	流入	放流	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
区分															
4月	54	39	92,000	17	0.03	390	230	210	69	43	49	29	<1	36	6.7
5月	51	36	99,000	38	0.02	400	210	230	60	43	43	32	<1	35	7.1
6月	51	37	110,000	40	0.02	540	220	350	66	43	46	27	1	35	6.2
7月	53	38	110,000	26	0.01	430	250	260	90	52	49	23	1	34	5.6
8月	52	38	88,000	18	0.02	530	240	340	83	50	48	27	2	37	6.6
9月	53	40	140,000	68	0.02	390	230	220	72	49	52	21	2	38	7.0
10月	54	39	86,000	34	0.01	640	240	430	56	49	53	34	1	38	6.5
11月	51	39	86,000	21	0.02	400	220	220	48	42	50	21	1	34	7.1
12月	52	39	95,000	25	0.02	430	220	250	44	49	49	24	1	33	7.1
1月	52	38	64,000	12	0.02	470	220	290	46	44	49	24	2	35	7.0
2月	53	39	120,000	17	0.02	480	230	290	55	49	50	21	2	34	6.5
3月	53	38	99,000	13	0.03	530	210	330	41	45	52	22	<1	37	6.4
最高	73	45	180,000	190	0.05	1070	300	830	140	68	79	58	3	50	8.0
最低	44	33	36,000	0	<0.01	290	200	120	28	31	44	14	<1	27	4.9
平均	52	38	99,000	27	0.02	470	230	290	61	47	53	25	1	36	6.7
測定回数	241	241	52	101	242	51	51	51	51	51	51	50	51	102	102
放流基準値		—		3000	—		—		—		—		—		10

項目 月	NH ₄ ⁺ -N		NO ₂ ⁻ -N		NO ₃ ⁻ -N		全りん		PO ₄ ³⁻ -P		色度		濁度		陰イオン 界面活性剤	
	mgN/l		mgN/l		mgN/l		mg/l		mgP/l		度		度		mg/l	
単位	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
区分	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
4月	26	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.9	3.8	<0.1	1.7	<0.1	41	14	56	1	5.2	<0.1
5月	24	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.8	3.8	0.1	1.7	<0.1	41	15	49	<1	5.1	<0.1
6月	24	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.0	4.0	0.1	1.8	<0.1	35	15	53	1	4.4	<0.1
7月	22	0.1	<0.1	<0.1	<0.1	4.1	3.3	0.1	1.5	<0.1	40	14	57	3	7.1	<0.1
8月	22	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	4.4	4.0	0.1	1.8	<0.1	35	14	52	1	5.1	<0.1
9月	23	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.1	4.1	0.2	1.7	0.1	33	14	52	<1	5.2	<0.1
10月	25	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.4	5.5	0.1	2.1	<0.1	32	11	55	<1	3.3	<0.1
11月	23	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.9	4.0	0.2	1.7	0.1	34	11	55	<1	3.4	<0.1
12月	20	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	6.0	3.9	0.2	1.8	0.1	35	12	56	<1	3.7	<0.1
1月	22	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	5.9	4.5	0.3	1.9	0.2	32	12	58	<1	3.2	<0.1
2月	21	0.1	0.1	<0.1	0.1	5.5	4.1	0.1	1.7	<0.1	37	14	57	<1	3.8	<0.1
3月	25	0.1	0.1	<0.1	0.2	5.5	4.6	0.2	1.9	0.1	34	13	57	<1	3.9	<0.1
最高	36	0.3	0.3	<0.1	0.7	6.7	7.5	0.5	3.2	0.4	51	17	61	9	9.3	<0.1
最低	12	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	3.5	2.6	<0.1	1.1	<0.1	26	7	33	<1	2.8	<0.1
平均	23	0	0	0	0	5.4	4.1	0.1	1.8	0.1	36	13	55	1	4.5	<0.1
測定回数	99	99	99	100	99	100	101	101	99	100	50	51	50	51	24	24
放流基準値		—		—		—		1		—		—		—		—

項目 月	n-ヘキサン 抽出物質		フェノール類		銅		亜鉛		溶解性鉄		溶解性マンガン		全クロム		カドミウム	
	mg/l		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l	
単位	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
区分	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
4月	20	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
5月	39	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
6月	71	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
7月	37	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
8月	46	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
9月	50	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
10月	36	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
11月	31	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
12月	50	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
1月	49	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
2月	37	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
3月	72	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
最高	110	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.2	0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
最低	16	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
平均	45	<0.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.05	<0.05	<0.01	<0.01
測定回数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
放流基準値		錳物油 5 動植物油 30		1		1		2		10		10		2		0.1

項目 月	1,1,2-トリクロロエタン		1,3-ジクロロプロペン		チウラム		シマジン		チオベンカルブ		ベンゼン		セレン		弗素	
	mg/l		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l		mg/l	
単位	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流	流入	放流
4月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
5月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
6月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
7月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
8月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
9月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
10月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
11月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
12月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
1月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
2月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
3月	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
最高	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
最低	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
平均	<0.006	<0.006	<0.002	<0.002	<0.006	<0.006	<0.003	<0.003	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.5	<0.5
測定回数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
放流基準値		0.06		0.02		0.06		0.03		0.2		0.1		0.1		8

項目 月	ほう素		アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物および硝酸化合物の合計	
	mg/l		mg/l	
単位	流入	放流	流入	放流
4月	<1	<1	10	5.5
5月	<1	<1	9.8	6.0
6月	<1	<1	10	5.1
7月	<1	<1	9.2	4.1
8月	<1	<1	9.2	4.3
9月	<1	<1	8.4	5.5
10月	<1	<1	9.0	5.5
11月	<1	<1	9.4	6.0
12月	<1	<1	8.0	5.5
1月	<1	<1	8.8	6.1
2月	<1	<1	8.6	5.5
3月	<1	<1	9.6	5.6
最高	<1	<1	12	6.7
最低	<1	<1	7.2	4.1
平均	<1	<1	9.2	5.4
測定回数	24	24	22	22
放流基準値		10		100

備考

1. 数値は各月の平均値である。
2. 各月の透視度の平均は、測定結果が100度を超えた場合、“100度”として算出してある。
3. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。
4. 「最高」「最低」は年間の最高値最低値である。
5. 「平均」は月平均の平均値である。
6. 放流基準値の（ ）内の数値は日間平均値を示す。

イ. 生物反応槽試験
1系-1

項目	水温	pH	MLDO	SV30	MLSS	SVI	MLVSS	有機分	Rr	Kr
	°C									
4月	19.8	6.2	1.5	67	3,290	200	2,620	79	9.6	2.9
5月	21.8	6.1	1.4	59	3,100	190	2,410	78	10.7	3.5
6月	23.7	6.1	1.4	50	3,100	160	2,510	81	13.6	4.4
7月	26.0	6.2	1.6	68	3,320	210	2,720	82	13.0	3.8
8月	27.6	6.2	1.6	70	3,160	220	2,590	82	10.6	3.3
9月	27.6	6.3	2.4	41	2,060	200	1,670	81	5.6	2.7
10月	25.2	6.1	1.9	63	2,100	300	1,740	81	6.4	3.0
11月	22.4	6.1	2.5	69	2,180	320	1,790	81	5.2	2.4
12月	20.6	6.1	2.2	48	2,460	200	2,020	82	6.2	2.5
1月	18.4	6.0	2.2	33	2,860	120	2,360	82	9.5	3.3
2月	17.9	6.0	1.8	45	2,990	150	2,480	82	9.0	3.0
3月	18.4	6.0	1.7	66	2,910	230	2,380	82	8.1	2.8
最高	29.4	6.7	4.2	80	3,530	360	2,760	83	18.4	5.5
最低	17.1	5.8	0.0	23	1,770	110	1,560	74	4.8	1.2
平均	22.5	6.1	1.9	67	2,800	210	2,290	81	9.0	3.1
測定回数	242	242	241	241	241	241	98	98	99	99

1系-2

項目	水温	pH	MLDO	SV30	MLSS	SVI	MLVSS	有機分	Rr	Kr
	°C									
4月										
5月										
6月										
7月										
8月										
9月	27.4	6.2	3.3	46	2,110	210	1,680	80	5.2	2.5
10月	25.1	6.1	2.4	62	2,170	290	1,780	81	6.5	2.9
11月	22.4	6.1	3.0	66	2,320	290	1,860	80	5.5	2.3
12月	20.6	6.0	2.4	73	2,560	290	2,060	81	6.7	2.6
1月	18.3	6.0	2.4	63	2,840	220	2,290	81	9.5	3.4
2月	17.9	6.0	2.1	77	2,890	270	2,370	81	8.7	3.0
3月	18.4	5.9	2.1	79	2,610	300	2,130	82	8.7	3.4
最高	28.4	6.4	4.8	87	3,100	340	2,480	83	11.0	4.1
最低	17.2	5.8	1.4	29	1,940	150	1,560	79	4.4	2.0
平均	21.3	6.0	2.5	67	2,500	270	2,020	81	7.3	2.9
測定回数	136	136	136	136	136	136	55	55	55	55

ウ. 返送汚泥試験

1系-1

項目	水温	pH	SV30	RSSS	SVI	RSVSS	有機分
	°C						
4月	19.6	6.2	100	13,640	80	11,140	80
5月	21.7	6.0	100	13,420	80	10,390	78
6月	23.6	6.1	100	13,160	80	10,670	81
7月	25.8	6.1	100	13,540	70	11,170	83
8月	27.4	6.1	100	13,260	80	10,840	82
9月	27.5	6.2	100	9,480	110	7,690	80
10月	25.2	6.1	100	9,140	110	7,690	80
11月	22.3	6.1	100	8,740	110	7,180	81
12月	20.5	6.0	100	9,900	100	8,200	82
1月	18.2	6.0	100	11,450	90	9,330	82
2月	17.8	6.0	100	12,430	80	10,100	82
3月	18.2	6.0	100	11,850	90	9,590	82
最高	28.8	6.5	100	16,600	130	12,900	84
最低	17.1	5.8	98	7,920	60	6,550	74
平均	22.4	6.1	100	11,710	90	9,560	81
測定回数	242	242	242	242	242	99	99

1系-2

項目	水温	pH	SV30	RSSS	SVI	RSVSS	有機分
	°C						
4月							
5月							
6月							
7月							
8月							
9月	27.4	6.2	100	9,870	100	8,060	81
10月	25.1	6.1	100	9,420	110	7,940	80
11月	22.3	6.1	100	9,630	110	7,820	80
12月	20.6	6.0	100	10,770	90	8,690	80
1月	18.2	6.0	100	11,500	90	9,190	81
2月	17.8	6.0	100	10,400	100	8,540	82
3月	18.2	5.9	100	9,570	110	7,460	82
最高	28.3	6.4	100	12,700	130	10,300	82
最低	17.1	5.8	100	7,960	80	6,890	79
平均	21.2	6.0	100	10,150	100	8,230	81
測定回数	136	136	136	136	136	55	55

- 1 数値は各月の平均値である。
- 2 「最高」「最低」は年間の最高値最低値である。
- 3 「平均」は月平均値の平均値である。
- 4 1系-2は、9月から供用開始した。

エ. 脱水汚泥試験

(ア)含有量試験(脱水汚泥)

項目	全窒素	全りん	含水率	強熱減量	発熱量
月					
単位	mg/g-乾	mg/g-乾	%	%	J/g
5月13日	45	18	73.5	81.1	16,000
8月6日	53	19	77.1	86.3	17,000
11月17日	55	18	71.7	86.8	18,000
2月3日	49	19	76.5	85.5	19,000
最高	55	19	77.1	86.8	19,000
最低	45	18	71.7	81.1	16,000
平均	51	19	74.7	84.9	17,500
測定回数	4	4	4	4	4

備考

1. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。

(イ)含有量試験(しき汚泥)

項目	全窒素	全りん	含水率	強熱減量	発熱量
月					
単位	mg/g-乾	mg/g-乾	%	%	J/g
2月3日	14	9.8	69.0	95.6	19,000

備考

1. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。

(ウ)溶出試験(脱水汚泥)

項目 月	アルキル 水銀	総水銀	カドミウム	鉛	有機りん	六価 クロム	ひ素	全シアン	ポリ塩化 ビフェニル	トリクロ エチレン	テトラクロ エチレン
単位	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l
5月13日	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
8月6日	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
11月17日	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
2月3日	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
最高	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
最低	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
平均	検出せず	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01
測定回数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

項目 月	ジクロロメタン	四塩化 炭素	1,2- ジクロロエタン	1,1- ジクロロエチレン	シス-1,2- ジクロロエチレン	1,1,1- トリクロロエタン	1,1,2- トリクロロエタン	1,3-ジクロロ プロペン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ ⁺
単位	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l
5月13日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
8月6日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
11月17日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
2月3日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
最高	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
最低	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
平均	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02
測定回数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

項目 月	ベンゼン	セレン
単位	mg/l	mg/l
5月13日	<0.01	<0.01
8月6日	<0.01	<0.01
11月17日	<0.01	<0.01
2月3日	<0.01	<0.01
最高	<0.01	<0.01
最低	<0.01	<0.01
平均	<0.01	<0.01
測定回数	4	4

備考

1. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。

(エ)溶出試験(しき汚泥)

項目 月	アルキル 水銀	総水銀	カドミウム	鉛	有機りん	六価 クロム	ひ素	全シアン	ポリ塩化 ビフェニル	トリクロ エチレン	テトラクロ エチレン
単位	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l
2月3日	検出せず	0.0008	<0.01	<0.01	<0.1	<0.05	<0.01	<0.1	<0.0005	<0.03	<0.01

項目 月	ジクロロタン	四塩化 炭素	1,2- ジクロロエタン	1,1- ジクロロエチレン	シス-1,2- ジクロロエチレン	1,1,1- トリクロロエタン	1,1,2- トリクロロエタン	1,3-ジクロロ プロペン	チウラム	シマジン	チオベンカルブ
単位	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l	mg/l
2月3日	<0.02	<0.002	<0.004	<0.02	<0.04	<0.3	<0.006	<0.002	<0.006	<0.003	<0.02

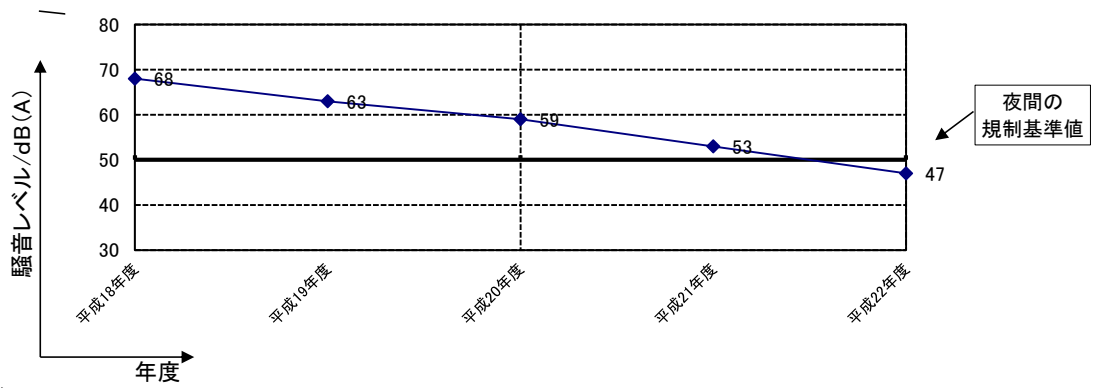
項目 月	ベンゼン	セレン
単位	mg/l	mg/l
2月3日	<0.01	<0.01

備考

1. <0.0Xは報告下限値未満であることを示す。

(12) 周辺環境調査(宮川浄化センター)

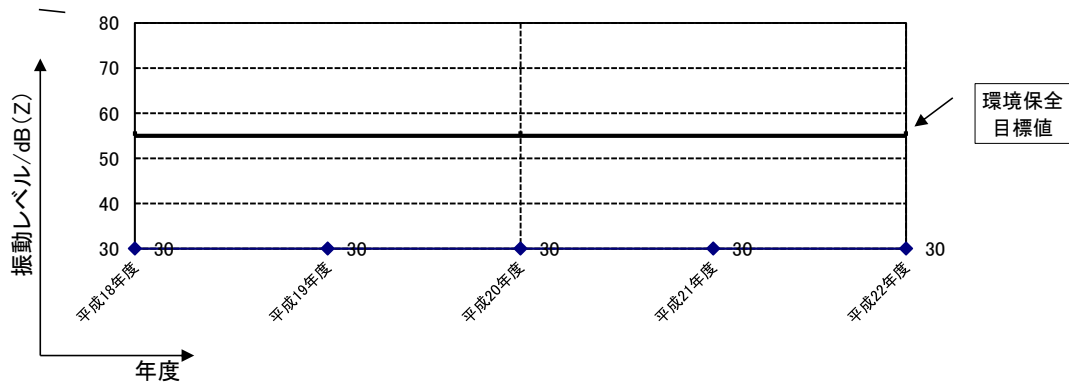
ア 騒音調査 (夜間)



(備考)

- 1.各年度における最高値(◆)を表示。
(8地点×2回/年分)
- 2.三重県生活環境の保全に関する条例の「その他の地域」に該当するため夜間規制基準の50dBを基準線として表示した。
- 3.最高値は、春から夏の時期の虫等の鳴き声による影響が大きい。

イ 振動調査



(備考)

- 1.各年度における最高値(◆)を表示。
(8地点×2回/年分)
- 2.周辺住居地域において55dB以下を環境保全目標としているため、55dBを基準線として表示した。

ウ 低周波音調査
1.1/3オクターブバンド音圧レベル

(春季)

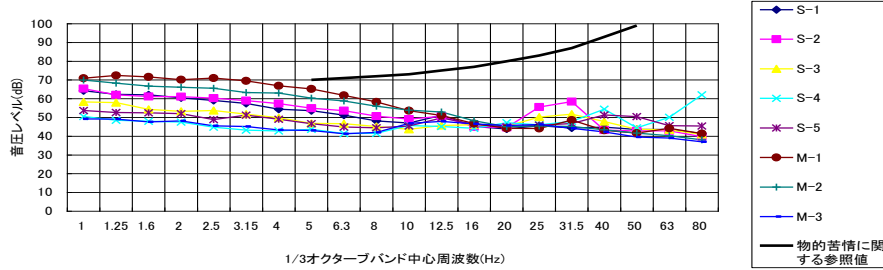
単位：dB

調査地点	中心周波数 (Hz)																	A	P												
	1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40			50	63	80									
敷地境界	S-1	64	62	62	60	59	57	54	54	51	48	47	51	45	44	46	44	45	44	44	41	70									
	S-2	65	62	61	61	60	59	57	55	54	51	49	51	45	45	55	58	43	43	43	40	71									
	S-3	58	58	54	53	54	52	50	47	47	45	44	46	46	45	50	52	48	44	43	41	65									
	S-4	51	49	48	48	45	43	43	44	41	42	46	45	44	47	46	48	54	44	50	62	64									
	S-5	54	53	52	52	49	51	49	47	45	44	45	50	46	45	46	47	51	50	46	45	62									
直近民地	M-1	71	72	72	70	71	70	67	65	62	58	54	51	47	44	44	49	43	42	44	41	79									
	M-2	70	68	67	66	66	63	63	60	59	56	54	53	48	45	45	45	43	42	40	38	76									
	M-3	49	49	48	48	46	45	43	43	41	42	47	48	47	46	46	44	42	40	39	37	59									
物的苦情に関する参照値																			70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99		

※単位dB

※APは1～80Hzの全音圧レベルを示す。

※測定は5月13日12時～14日8時の間で騒音振動測定と同時に行い、風、自動車、飛行機等の影響が最も少ない時間帯のデータを採用した。



(秋季)

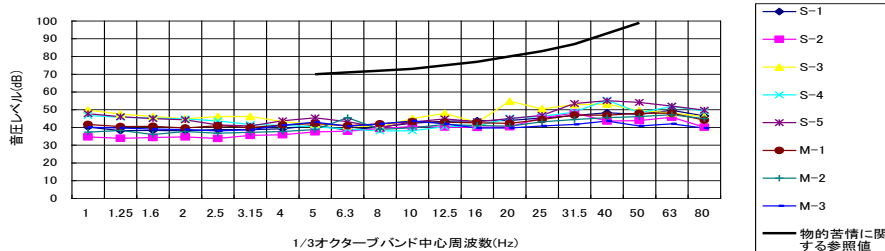
単位：dB

調査地点	中心周波数 (Hz)																	A	P												
	1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40			50	63	80									
敷地境界	S-1	40	38	38	38	39	39	39	41	38	40	42	43	44	44	45	47	48	47	50	46	59									
	S-2	35	34	34	35	34	36	36	38	38	39	41	40	40	40	45	48	44	44	46	40	56									
	S-3	50	47	46	45	46	46	43	42	41	40	45	48	43	55	50	53	53	49	48	46	65									
	S-4	47	46	45	45	44	42	41	40	39	38	38	40	41	45	46	49	55	48	52	49	63									
	S-5	48	46	45	44	41	41	44	45	43	40	43	45	43	45	47	53	55	54	52	50	63									
直近民地	M-1	42	40	41	40	41	40	41	42	41	42	43	43	43	42	44	47	47	48	48	44	59									
	M-2	37	38	36	38	37	37	38	39	45	39	40	42	41	41	43	44	46	46	47	45	57									
	M-3	40	40	39	39	38	39	41	43	41	42	44	42	40	40	41	42	44	41	42	40	57									
物的苦情に関する参照値																			70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99		

※単位dB

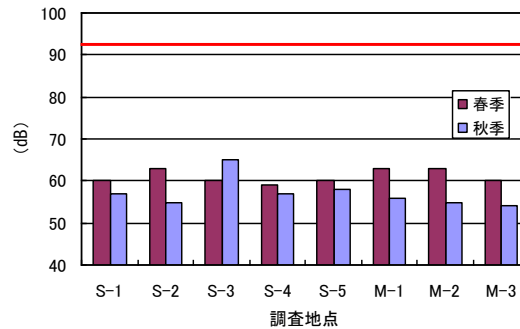
※APは1～80Hzの全音圧レベルを示す。

※測定は10月14日13時～15日8時の間で騒音振動測定と同時に行い、風、自動車、飛行機等の影響が最も少ない時間帯のデータを採用した。



2.G特性音圧レベル

G特性音圧レベル



(備考)

心身の苦情に関する参照値92dBを基準線として表示した。

エ 悪臭調査

(ア)臭覚測定

項目 \ 年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
臭気指数	29	21	20	15	27

(備考)

1.各年度における最高値を表示(12地点×2回/年)。

(イ)機器試験

(単位:ppm)

項目 \ 年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
アンモニア	<0.1	0.2	0.4	0.1	0.2
メチルメルカプタン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
硫化水素	0.028	<0.002	<0.002	0.004	<0.002
硫化メチル	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
二硫化メチル	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009	<0.0009
トリメチルアミン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005

(備考)

1.各年度における最高値を表示(12地点×2回/年)。

2.他に放流水中の悪臭4物質試験も実施しているがすべて報告下限値未満であった。

オ 水質調査

生活環境項目

(単位:表示の無いものはmg/l)

項目	年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
透明度 (m)		2.0	1.5	1.5	1.0	1.3
pH (-)		7.9~8.2	7.9~8.3	7.8~8.0	7.8~8.1	7.8~8.1
溶存酸素		5.8~9.6	5.8~10	5.5~9.7	5.2~9.4	5.0~10
COD		3.0	3.0	2.9	3.1	2.5
全窒素		0.64	0.4	0.38	0.44	0.56
全りん		0.094	0.06	0.07	0.043	0.050
残留塩素		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.01
浮遊物質		12	4	8	5	4
大腸菌群数(MPN/100ml)		5,400	940	1,300	350	1,700

(備考)

1. 放流口最寄地点における各年度の最高値。
(5地点×4回/年。ただし、透明度は最低値、pH・溶存酸素は範囲を表示。)
- 2.他に健康項目27項目の調査を実施している。

カ 底質調査

乾泥あたり含有量

(単位:表示の無いものはmg/kg)

項目	年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
C O D (mg/g)		6	5	4	7	7
n-ヘキサン抽出物質		83	200	200	100	51
カドミウム		<0.1	0.1	<0.1	0.1	<0.1
全シアン		<1	<1	<1	<1	<1
鉛		10	15	5	12	12
六価クロム		<1	<1	<1	<1	<1
砒素		3.6	3.5	5.9	2.3	1.8
総水銀		2.60	0.18	0.33	0.68	0.33
アルキル水銀		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
ポリ塩化ビフェニル		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
全窒素 (mg/g)		1.0	0.4	0.3	0.7	0.7
全りん (mg/g)		0.30	0.40	0.30	0.30	0.30
硫化物 (mg/g)		0.06	0.10	0.08	0.28	0.05
含水率 (%)		25.6	24.7	28.0	25.3	26.5
強熱減量 (%)		2.8	3.0	2.8	3.4	3.4
ダイオキシン類(pg-TEQ/)		3.0	3.0	3.2	3.7	3.6

(備考)

1. 放流口最寄地点における調査結果 (1地点×1回/年)
- 2.他に溶出試験7項目を実施しているが、すべて報告下限値未満であった。